

土地活用を検討するなら
「相続会議」の **無料プラン請求**

朝日新聞社運営
円満な相続をサポートする情報サイト

朝日新聞
DIGITAL

参院選 ウクライナ情勢 速報 朝刊 夕刊 連載 ランキング ... | 検索 | ログイン

トップ 社会 経済 政治 國際 スポーツ オピニオン IT・科学 文化・芸能 ライフ 教育・子育て 医療・健康 地域

朝日新聞デジタル > 記事

令和揮毫の書家、故郷で書展 パリ・銀座に続き 岐阜

山下周平 2022年6月16日 10時30分

シェア ツイート ブックマーク メール 印刷 [list](#)



自身の作品などについて話す茂住薫郎さん=2022年6月13日、岐阜県高山市の市民文化会館、山下周平撮影



← Ads by Google

フィードバックを送

広告表示設定

岐阜県飛騨市出身の書道家 茂住薫郎（もづみせいそん）さん（66）=本名・修身=の書展「言霊の響」が高山市の市民文化会館で開かれている。篆書（てんしょ）や甲骨文字など様々な書体の作品70点を展示する。19日まで。

茂住さんは県立斐太高校（高山市）を卒業後、大学で書を始めた。2005年からは大臣の辞令などを揮毫（きごう）する内閣府辞令専門官として国民栄誉賞の賞状などを担当。新元号発表の際、当時の菅義偉官房長官が掲げた「令和」の文字を書いたことで知られる。

昨春退官し、書家としての活動を始めた。今年2月からはフランスのパリで書展を開き、東京に引き続いだり故郷での書展開催にこぎ着けた。

13日にはギャラリートークがあり、漢字の成り立ちなどについて自身の作品を例にとりながら解説。手書きの重要性を訴え、「気持ちの伝わり方が違う。年賀状など文書の最後に一言でもいいので、手で書いてほしい」と話した。

市民文化会館での展示は無料で19日まで。7月2日からは飛騨市美術館に会場を移し、8月21日まで展示する。入館料200円

（高校生以下無料）。各種イベントも予定されている。（山下周平）

関連ニュース

地域ページ トップ

朝日新聞
DIGITAL

最新の地域面紙面イメージ

朝日新聞
DIGITAL

こんな特集も

注目の連載記事 →

もっと見る

いちからわかる！

北欧2国がNATO加盟、トルコが後ろ向きだね



問われる民意2022

岸田首相は「スライムのよう」実はしたたか？昭和の政界に重ねると



NO! 実績不足!

1万棟を超える圧倒的な施工実績

工場・倉庫を建てるなら

YESS建業
YOKOGAWA ENGINEERED STRUCTURE SYSTEM

PR 注目情報

落合陽一さん・滝沢カレンさんら

AIつまみ？話す食材？…未来を空想

マセラティ「レヴァンテGT」の世界観

杜の都、仙台でその疾駆を体感する

日々の変化を楽しもう！

笑顔の似合う明るい口元

朝日新聞イベント